



運送管理のクラウドシステム開発により 組合員の業務効率化を実現！

「日本全国組合紀行」では、全国の様々な組合の取組について紹介します。
今回は、クラウドシステムによる組合員の業務効率化を実現した佐賀県の「佐賀県貨物自動車事業協同組合」の取組を紹介します。

佐賀県貨物自動車事業協同組合

佐賀県佐賀市西与賀町厘外1592-4
理事長 原田 一洋

〈設立年月日〉

昭和57年5月1日

〈組合員数〉

71名

〈組合員業種〉

道路貨物運送業



佐賀県貨物自動車事業協同組合HP
<https://www.sagakakyō.jp/>

〈背景・目的〉

OSのサポート期間終了により、基幹システムの切り替えが迫られる中、組合員においては情報システムへの対応に多額の費用がかかり、導入や移行ができない状況にあった。また専門の人材がおらず、日常の運用に不安もあるなど、システムを十分に活用できていないことに対応すべく、組合で利便性の高いクラウドシステムを開発することとした。

〈取組内容〉

売上管理や備車管理をはじめ、経営分析やデジタルタコグラフとの連動、スマートフォンを利用した作業状況の報告と荷主への荷物お問い合わせサービスの提供等、運送業に必要とされる機能をクラウドで提供する統合管理システム「そらうど」の開発と運用を開始した。まず情報事業化委員会を設置し、基本方針、事業内容、実施スケジュール、アンケートや説明会を通して汲み取った組合員のニーズや問題点にマッチしたシステムを開発することを決定。開発および運用は、情報事業化委員会を中心に、利用者にはリモートで事務局職員が迅速丁寧に対応している。委託先と連携し、利用者からの要望を受けて、システムの改善に役立てている。

運送業者の90%を占める小規模事業者をターゲットに、低コストで使い勝手の良いシステムを提供、多額の設備投資ができず、働く人も少ない小規模事業者にとって力になっている。結果として組合事業の中でも、高速、燃料に次いで、情報が3番目の重要な事業の柱になった。

〈成果〉

「そらうど」運用開始で、組合員の業務効率化・コスト削減・収入増加が実現できた。クラウドシステムにより、データの有効活用も実現。小規模事業者向けに使い勝手の良いシステムと迅速丁寧なサポートで、インボイスにも対応しており組合員以外の利用者も増加し好評を得ている。さらに周囲の技術を利用しやすくすることで、必要な機能やサービスに特化したシステムへの進化を目指す。



クラウド運送管理システム「そらうど」



「そらうど」HPはこちら